

札幌のごみ減量について 専門的見地から議論しています

札幌市廃棄物減量等推進審議会

この春から、札幌市のごみ処理の在り方について幅広く議論しています。中でも、「家庭ごみの有料化」については、審議会内に検討部会を別に設け、実施の是非を含めて検討しています。「北の大都市で、環境負荷を減らしながらも、豊かな生活を送る」—そのために、誰でもできるごみ減量の取り組みを、皆さんの声をしっかり聞きながら考えていきます。



よしだ ふみかず
会長・吉田文和
(北海道大学
公共政策大学院教授)

審議会の動き

本会議

■第1回(4/22)

市長から吉田会長に諮問書が手渡され、市の担当部局が諮問趣旨と現状を説明。また、有料化検討部会の設置を決定しました。

■第2回(6/7)

計画の枠組み、基本目標・方針などについて審議しました。

■現状視察調査(6/29)

ごみステーションの収集現場のほか、山本処理場(厚別区)と白石清掃工場を視察しました。

■第3回(7/6)

「生ごみ」「資源ごみ・紙ごみ」「教育・啓発」の3グループに分かれて、具体的な検討を重ねていくこととしました。

家庭ごみ 有料化 検討部会

■第1回(5/19)基本事項などの確認

有料化の実施を前提とした部会ではないことを確認。今後の検討内容についても話し合いました。

■第2回(6/14)有料化の論点整理

「有料化」については、ごみ減量はもとより、ごみ処理施策全体に効果的かどうか、総合的な観点でその位置付けや実施の是非などを検討していくこととしました。

■江別市(16年10月から家庭ごみを有料化)の視察(6/29)

●江別市では、「燃やせるごみ」と「燃やせないごみ」を有料化。基本的には、指定のごみ袋(大きさによって20円～80円)を購入する方式を導入。「資源物(びん・缶・ペットボトルなど)」「危険ごみ(スプレー缶や蛍光灯など)」は無料。
●実施から半年間(16年10月～17年3月)の排出量を実施前の同期間と比較すると、「燃やせるごみ」「燃やせないごみ」は共に30～40%減少。一方、より一層分別が進み、「資源物」は約10%増加。

ご意見はこちらへ

第2回を読んだ感想や意見をお寄せください。ごみの減量には、皆さんの意識の高まりが欠かせません。今後も、誌面を通じて多くの声を紹介しながら、議論の輪を広げていきたいと考えています。

送付先

環境局環境事業部計画課
〒060-8611 中央区北1西2市役所内
FAX218-5108 Eメール seiso@city.sapporo.jp
※住所・氏名・年齢・電話番号を記入してください。



家庭ごみの有料化

- 排出量に応じてごみ処理費用を公平に負担するためにも、有料化には賛成です。(30代・女性)
- 税金でのごみ処理は、自分たちのお金が掛かっているという意識を持ちにくいので、直接負担に変えたほうがいい。(40代・女性)
- 有料化には賛成ですが、おむつを使う子供がいる家庭には、ごみ袋を支給するといった配慮が必要。(30代・女性)
- 近くのごみステーションの利用マナーは最悪。有料化すれば、自分のごみに責任を持つのでは。(女性)
- 有料化には賛成。例えば、生ごみは家庭で処理できるコンポストなどを使って、積極的に減らす工夫をすれば良いと思います。
- 私の地域では、若い方のごみ出しマナーが悪い。そうした中、有料化を実施しても、もっと乱れるばかりで効果は薄いと感じます。(女性)
- 私は、道路に散乱したごみや落ち葉を拾って、ごみステーションに出していました。有料化になったら、そうした自発的な行動が減っていくのでは。(男性)
- ごみとなる過剰包装を抑えるには、生産・流通の段階から見直す必要がある。そのしわよせを市民が負担するのは、基本的な考え方がずれている。(40代・男性)
- 市民負担を増やす前に、市の清掃事業の効率化、さらには市の仕事全般の効率化が先だろう。(男性)
- 安易に有料化すべきではない。悪質な不法投棄への対策をしっかりと考えてからでしょう。(女性)
- 有料化したとしても、市民がごみの減量に効果があったと実感できなければ、「何のために負担しているのか?」といった疑問を抱くことになりかねないのでは。(女性)